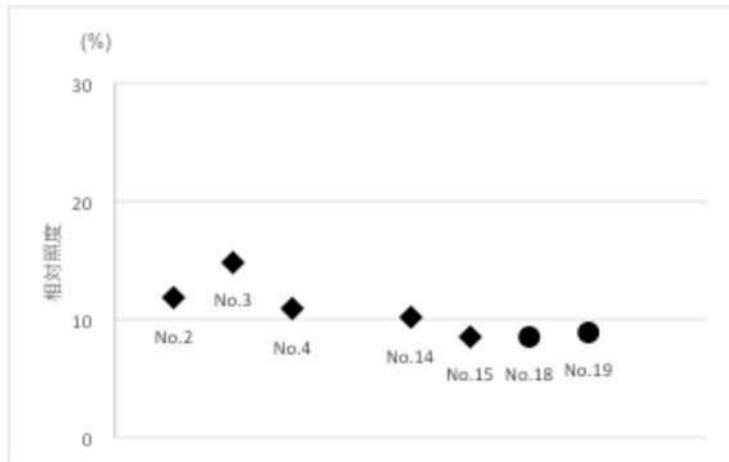


4 月調査速報

○照度調査

4 月 20 日に 2 回目の照度調査をおこなった。調査日の天候は雨のち晴れで、調査時間帯は 9:00～11:00 であった。調査結果を下図表に示す。自生地の相対照度 8.6～10.1%と同程度の相対照度がある移植候補地は No.2,3,4,18,19 の 5 地点である。自生地 No.14,15 の相対照度は 1 回目の 18.0～19.1%と比較し、8.6～10.1%に低下した。これは高木層を構成する落葉広葉樹の葉が展開したことによる照度低下と考えられる。

地点 No	相対照度 %	移植 候補地
No.2	11.8	○
No.3	14.8	○
No.4	10.9	○
No.6	73.4	圃場
No.14	10.1	自生地
No.15	8.6	自生地
No.18	8.5	○
No.19	8.8	○



○ハリマムシグサの同定

4 月 20 日に地点 No.14,15 にて、開花したテンナンショウ属個体をハリマムシグサと同定した。

○ハリマムシグサ自生地の発見

地点 No.2,3,4 の谷において、ハリマムシグサを確認した。生育状況について以下に示す。大型個体は少ないものの、個体群の中で繁殖しており、今後も存続すると考えられる。なお他の谷においてはハリマムシグサを確認していない。

- ・谷下部林縁から谷上部まで点在して分布していた。疎な密度であり、移植株の植栽スペースは確保できる。
- ・ほぼ全ての個体がコナラ林の林床、一部はササ類の下で生育していた。
- ・雌と雄、無性合わせて 30 株程度を確認した。
- ・性は雌 1、雄 13、他は無性個体であった。栄養繁殖とみられる子株を複数もつ個体を確認した。

移植計画の変更

前年 9 月と今年 4 月の調査より、以下の情報が得られた。

- ・開花個体よりハリマムシグサと確認できた
- ・小型のハリマムシグサは、4 月から出芽し、夏季に地上部を枯らせると推察される
- ・照度調査地点 No.2,3,4 でハリマムシグサを確認した

○移植候補地の選定

移植候補地の中で である地点 No.2,3,4 を含む谷を、移植適地と評価する。ハリマムシグサが生育する範囲全体を対象に、自生個体と移植個体が過密にならないよう適宜、移植する。

○移植時期

移植時に小型個体の地上部を確認できるように、梅雨時期に移植する。元計画では複数年に分けて移植することを検討していたが、移植適地が見つかったため、1度に移植をおこなうことを検討している。



(上)開花状況(中)雌花(下)雄花